



1 教室で一緒に給食、将来への目標に会話がはずむ。2 綱越えを連発した豪打披露。3 手取り足取りによる丁寧なアドバイス。4 240球におよぶ直々のトス。5 校庭に声援が飛び交う。6 一流としての心構えを伝授。7 感動に包まれた体育館でのトーク。

Pickup Topics



球界屈指の長距離打者で知られる小久保裕紀選手(37)。95に本塁打王、97に打点王に輝き、99からの日本一連覇を牽引。愛称はミスターホークス。

● 赤池中でNHK教育テレビ収録
小久保裕紀選手からのメッセージ

努力こそ夢への近道



野球少年のあこがれ「鷹の主砲」がこの町にやってきました。一本足打法から放たれる豪打と笑顔で伝えられたメッセージに心うたれた貴重な一日。夢をテーマに過ごした夢のような時間をふり返ります。

12月15日に赤池中学校でNHK教育テレビ「チャンピオンからのメッセージ」の収録が行われ、福岡ソフトバンクホークスの小久保裕紀選手が来町しました。心待ちにした全校生徒と保護者が迎えた体育館で、小久保選手が拍手と歓声に包まれて登壇し、これまでの軌跡と想いをトークショーで伝えました。

「毎日努力することが夢への近道。みんなが遊んでいるときに努力しなければ夢は叶わない。夢が叶うことを心の底から願って、どうすれば達成できるかを考え、行動に移さなければ、夢はつかめない」と、小学生時代から現在に至るまでのエピソードを交えた熱いメッセージに、会場全体が聞き入りました。その後、校庭で少年野球と同校野球部、希望者抽選の48人を小久保選手が1対1で指導。一人ひとりに5球ずつ、240球のトスパッティングで、ボールと笑顔を投げかけました。給食では生徒25人と多国籍料理のメニューを楽しみなが、将来の夢について歓談。プロとして、人として、小久保選手の魅力に圧倒された貴重な時間が、生徒たちの胸に印象深く刻まれました。

福智の風

▶「みんなと同じ事をしていても結果は同じ。毎日の努力の積み重ねが成果を生む。結果はすぐには出ないが必ず表れる。ヒントやチャンスに自ら気づかなければ何も得られない。結果が出ない努力は、努力とは言えない」。そんな小久保裕紀選手が福智町で語ったメッセージに、痛いほど共感しました。ずるい人間が笑うのではなく、真に頑張っている人が報われる社会であるように…そんな新しい年であってほしいと願っています。(長野)

▶年賀状を作るために、写真を探しました。しかし、自分と妻の写真が全くないことに気づき、かくせんとしました。仕事では、あんなにたくさん写真を撮っているくせに、自分の嫁さんの写真も撮っていないなんて、せつかくの自前のカメラが台無しです。結局、夏の新婚旅行で撮った季節はずれの写真を羽目に…。今年こそは妻といろいろな所に出かけて、たくさん写真を撮ってあげたいと思います。(昌太郎)

▶子どもは敏感なので、同じことをしてもそこに愛情があるかどうか分かるのだといいます。子どもと接する時間的なゆとりはなかなか持てなくても、心のゆとりは持っておきたいもの。接する時間が短くても愛情があればちゃんと伝わると思います。保育所や学童クラブなどでたくさんの子どもに出会えた今月号。見知らぬ私に次々と話しかけてくれた子どもたちの笑顔に家庭からの愛情を感じ取られ、心があたたかくなりました。(日吉)

四季の歌

心映の投句

俳句・短歌教室の詠歌紹介

隣保館・みのり句会 池田一歩選

今盛り掃く手休めて花石路を
犬小屋の位置も替へたる冬用意
日々散歩今朝は山茶花咲く道を
冬紅葉見晴らしにして温泉かな
茶の花や生計の名残り坊の跡
野良猫の何時もの居場所冬ぬくし
枯菊の惜しまれつゝも焚かれけり
塩梅が今年も自慢大根漬く
納屋の灯の未だ消えやらす注連作
里芋に初穀かけて冬圓ひ

森 玲子
小笠原雄子
白石 幸子
久松ミサオ
小場 妙子
丸山 鈴子
吉田 弘
安田 健一
大久保幸子
宇野八重子

福智町金田公民館俳句教室 岩井竜童選

着ぶくれていつより切れぬ糸切り歯
水潤れて鶯の孤独の脚長し
賜はりし小春の部屋に母と居る
神留守の影躍らせてチンドン屋
朴落葉襦に朱鳥句碑眠る
雪を被る合掌作り神宿る
短日の札所巡りの足早やに
駆けてゆく子らに時雨の狂乱す
今年酒夫在るごとく買ひにけり
雲水の折りの長し冬紅葉

日比生利子
建部三由紀
松岡 篤枝
永尾喜美江
長副美恵子
迫田 昌子
今井三千代
小川 雪
島山 玲子
花石かほる

方城句会 池田一歩選

山茶花や壁の真白なパン工房
小六月古賀メロデーは永久にかな
整然と丈の揃ひし葱畑
裏英彦の残る紅葉を惜しみけり
それなりに太っておりし大根引く
切干しの香りも詰めて定急便
霜の朝娘パン屋で高帽子
風もなく美しき湖面の黄葉かな
手術待つ東の間寒きベットかな
東海のプラットホーム冬めきて

松本美根弥
野村 鈴子
桑野 昌宜
白石 凡子
渡邊 一枝
尾崎 和子
藤井耿之介
杉 フジエ
倉石嘉代子
木村 誠一

第二十八回もしび短歌大会入選歌

シルバリーの髪むらさきに淡く染め妻コーラスのステージに立つ
地中より出でて幾日鳴きたるや油蟬落ちぬ歩むわが前
庭隈に陽をうけかがやく曼珠沙華養父の遺影の前に飾らむ
跨線橋渡らむとして夕映えの余光にあはくレールひかれり
神殿の銀杏の大樹見あぐれば泰然としてわれを見おろす
二年間通いし歯科の治療終えて姉は二ヶ月後に逝きたり
冷凍で送りてやらむハンバーグ孫の笑顔の顔ちくる夕餉
茄子紺の染め上がりたる仕立て直し母逝きてのち届きしかの日

岡野富司生
福田 昌
高橋 成子
佐竹喜久雄
辻田 幸也
住野 澄子
白石 信子
加治 智子